

業界の課題は「風営法読んで」 「多種多様」釣りは思うままに

風営法PTリーダー 茂木欣人



平成27年は年始の全日遊連での課長講話以降、あれやこれやと追われる年でした。もろもろ解決していればいいのですが、業界の課題を社会視点での可視化することがこれからも求められると思っています。

そんな中での風営法PTリーダーから言えることは、一度風営法法令集を読んでください、ということ。部下や周りのメンバーから、様々な判断を迫られた場合なぜそう思ったのかを質問者に投げかけてはどうでしょう。

釣りに行って真剣な茂木リーダー



どの法令を根拠にしているか、一度法令集をみて「ソース」を元に協議することで双方の技量があると思います。ネットでは、ソースばかり訊かれますから、若い連中相手にはちょうどいいと思います。

さて釣バカは、昨年の12月中旬の段階で、年間釣行回数34回。総水揚げ高947尾、イサキの221尾、アジの207尾と両魚種で半数をしめています。毎回釣れているかという点、0尾も2回あり、ともに深場のアカムツにキンメ狙いでした。魚は実家に持ち込み、両親のおかずと知り合いへのおす

そ分けになっています。

あまり数が釣れない魚種の次は、実家の冷凍庫の状況を見ながら数釣りが楽しめるものに行くようにしています。年金生活の両親は、1日2回は魚料理を食べ、バラエティに富んだ釣果を楽しみにしているわけです。

写真の釣行は、12月初旬の小田原早川港からのキンメ釣り時のものです。小田原のキンメは、比較的浅く水深200メートルから400メートルを狙

います。

い、キンメにしてはライトな釣りです。新調した中深場リールに竿で6万円程度。キンメ1尾千円程度とみると元を取るの大変です。

重さ50



0グラムくらいのおモリを投入し、東京タワーの高さほどの海底を狙う釣り。これでもライト深場なのですが、気負った結果、キンメは0尾、高級魚のクロムツ4尾という結果でした。船代が1万円くらいですが、狙いにもよりますが、15尾釣れば原価回収

で往復車両費分が遊び賃というところでしょうか。

毎回勝ち負けを試算したりするので、鮮魚売り場に行ったりもしています。あんなに大漁だったイサキも25〜30センチの塩焼きサイズで700円はします。遊漁なので、売ったりはしません。

パチンコと同じで、MAXタイプ中深場の釣りから、アジイサキなどのライトタイプまで、幅広く専用の釣具をそろえているので道具置き場が大変なことになっています。家ではまっすぐな竿たちですが、船上では魚信と共に概ね垂直から、6時方向にググツと、釣竿は曲がったほうがいいのです。